

第 3 1 回 滝川市環境市民委員会の開催結果について

開催日時	平成 2 3 年 1 0 月 1 2 日 (水) 午後 4 時～午後 5 時 3 0 分
開催場所	滝川市役所 3 階 3 0 1 会議室
出席状況	【委員】 出席：石井委員長、檜原委員、加藤委員、田代委員、中村委員、藤井委員、水戸委員 山田委員 欠席：伊藤委員、岩本委員 【事務局（滝川市）】 市民生活部 庄野参事 〃 暮らし支援課 赤松課長、橋本主査、畠山主事
議事内容	1. 開会 2. 平成22年度までの取組状況に対する評価について 前回会議で市の自己評価案を作成・提示し、それをもとに委員会として評価作業を進めることとしていたことから、事務局が資料A（各物語ごとにつき1シート、計4シート）として自己評価を作成した。なお各委員に対しては会議前に事前送付済。） 最初に事務局から資料A－1から4のそれぞれをもとに、各物語の自己評価について説明を行った。各委員からの意見等は次のとおり。 【全体】 委 員）今回の自己評価は全体として、かなり控えめな評価になっているという印象を受けた。 事務局）計画期間の中間地点である現時点で一度、立ち止まって自己評価すると、やはり様々な課題として気がつく部分も多く、そういった意味ではまだまだこれからというものも多いということでこういう評価傾向になった。 【資源の環 循環物語】（資料A－1） 委 員）リサイクル推進員の取組については、発足当初はきちんと研修会なども行うなどして、成功したよい取組だったと思う。ただ、その後、だんだんと役割や位置付けがルーズになってきて、受け手の側としても、推進員が単に「地域のごみを拾って歩く当番」といったイメージが付いてしまい、町内でも引き受け手がいなくなっていったのも事実である。 事務局）リサイクル推進員については、その制度自体を見直すことも考えている。 委 員）制度を止めてしまうのではなく、もう一度、研修などを行うなどして、ごみ問題への地域としての意識を高める意味からも改めて構築し直すべきではないか。 委員長）名前を変えて、イメージを変えるというのも一つのやり方かも知れない。稚内市でも住民参画の成功例がある。 委 員）クリーンデーについても、同様にただ単に町内会宛に文書を回して、それで終わり！というような感じになっている。こういった地域住民が幅広く参加するイベントこそ、適正処理やごみ減量化などの問題への意識付けのツールとして活用していくことは考えられののではないか。 委 員）町内会が無い(組織されていない)地域についてはリサイクル推進員はどうなるのか？ 事務局）現状、町内会のない地域はないと認識している。ただし、今後、そういった

空白地域が出てくる可能性はある。

委員長) レジ袋削減についてはある程度、効果が上がったということで評価としてはAでもよいのではないかな。

事務局) 過剰包装の部分についてはこれからというところなので、今後の課題を残しているということでBと評価している。

委員) 過剰包装については、人によっても受け止め方が異なり、また状況によっても形式的・儀礼的なものも含めて、様々場合があるので、一括りに対応策を考えていくのは難しい。

委員長) そういった課題もあるということで、Aに近いB評価ということで理解することとしていきたい。

委員長) フリーマーケットについても、情報提供だとか市の開催イベントなどはうまくいっているようなのでAでも良いと思うが、ここも課題面があるということでBという評価か？

事務局) フリーマーケットについては、概ね良い結果が出たと評価している。ただ、フリーマーケットは単発的というかそのイベント限りのことなので、この仕組みが日常的に営まれているリサイクルショップなどの更なる活用が次の課題として浮かび上がってくることから、B評価とした。

委員長) 古紙の定期回収量について、「見込んだほどの収集量に達しなかった」という記述があるが、どの程度だったのか？

事務局) 想定の半分程度だった。ただし、想定量が若干、過大な見積だったのではないかなという反省はある。

委員) 学校単位などでも集団資源回収は行われており、そういったものも総合的にみて、更なる回収量の拡大を図っていくことが必要である。

委員長) グリーン購入の推進については、例えば品質基準だとか環境配慮面からどれだけの効果があるのかなどの基準づくりが明確でないなどいろいろと課題があることは確かなので、国や道に対してしっかりした情報提供を求めていくことが必要である。ただ、市としてもグリーン購入を進めていくという宣言が必要ではないかな。

事務局) それについては、未だ明確な方向性や方針を持っていないので、庁内関係所管で今後、話し合いをしながら決めていきたいと考えている。

【創エネ・省エネ 物語】（資料A-2）

委員長) エネルギーについては、現況がこういった状況なので、今後、国としての基本方針が固められていき、それに基づいた政策が打ち出されていくことが予想される。現時点ではその動向を見極めた上で市としてどのように対応していくのかという大きな枠組みがあるので、全体としては、こういった評価にならざるを得ない。また、電力対策ばかりに目が向きがちだが、（熱や動力なども含めて、）エネルギーを総体的に考えていかなければいけないので、太陽光発電はもとよりバイオマスなども含めて、今後に向けては例えばリサイクルのさらなる活用方策の検討などいろいろと打ち出していくべき施策は考えられる。

委員) 市の独自補助制度を構築して、特に太陽光発電だけを税金で補助するということについては、まだ設置にある相当程度の費用がかかるといった状況で、例えば地場企業への活性化対策などの波及効果といった面からもどれくらいの効果が見込めるのかといったことも含めて検討していく必要があるのではないかな。

委員長) 省エネについては、これまでの取組については一定の評価が出来るのではないかと思いますので、この方向で更なる推進をしていけばよいのではないかと思います。意味で、C評価ではなくB評価でも良いのではないかと。

→ 一同の賛同により、B評価へと変更

【農・山・川 物語】（資料A－3）

委員) 滝川では学校給食にも滝川産の米をはじめとして地元産の農作物が採り入れられており、子どもたちにも相当、地域の農作物についての理解が深まっていると思う。農業体験授業については、受け入れていただく農家側の都合もあるので、そのあたりをどうしていくのかという課題はある。

事務局) 現在、農業体験授業に関しては市でもそういった課題については認識をしているところであり、今後、こういった対応策が採れるのかということについて、協議を進めていく予定である。

委員) このページの1項目目と4項目目はどちらも結びが「今後も継続的に取組を推進していくことが求められる。」だが、A評価とB評価で異なっている。違いは何か？

事務局) 植樹の方は数値的には目標と照らしても、順調に実績をあげているところであるが、単に木を植えるということだけでなく、これをどのように波及させていくのかといった視点から、さらに事業効果を向上、拡大させていくにはどうしたらよいのかといった課題も考えられることから、こちらはC評価としたが、そのあたりの説明が不足しているので、ここの記述を修正する。

委員) 植樹については、植えた後のメンテナンス(手入れ)も重要であり、そのあたりもきちんとケアされているのかといったことも注意する必要がある。

委員) 森のかがく活動センターが森林に関する情報提供という役割を担っているということであるが、学校林がある場合、子どもたちがそういった実際の森林にふれあえる環境を有しているのであれば、敢えてこの施設を利用する必要性も少ないということもあるのではないかと。

事務局) そういった意味で、現在の利用状況と併せて、この施設の役割自体の見直しといったことも今後、課題として考えていかなければいけないことになる。

委員長) そういった観点の課題を含んでいるとするならば、B評価というよりはC評価が妥当ではないかと。

→ 一同の賛同により、C評価へと変更

【人の環づくり 物語】（資料A－4）

委員長) ここはこれから創設されるたきかわエコネットが始動することによって、徐々に動き出していくことになると思うので、全体として自己評価は妥当であると考えます。

特にこれからは、行政が全てを担おうとしても限界があるので、民間の取組を支援し、そういった活動を引き出すようなことが重要になってくると考えられる。

3. 評価報告書案の提言部分に関する記述について

委員会から市長に提出いただく評価報告書について、事務局から資料Bのようなイメージ案を提示し、概ねこのような書式とすることで決定した。

また、資料B中のA及びB部分の記述をまとめるため、まずは各委員から意見を出していただくこととした。

委員) 全部を同時に推進していくことは難しいので、ある程度優先順位を付けながら、その年ごとに何を重点にしていくのかを決めながら進めていくべきではないか。

委員) できることからまずはやっていくべきではないか。

委員) 市は市民に向けてもっとPRや働きかけをしながら、サポーターを増やすような努力をすべきではないか。

委員) やはり生活に身近な問題としてごみの減量化に力を入れていくべきではないか。

委員) 今まで自分が知らなかったように、多くの地域住民はこういった取組が成されていることを知らないと思うので、実はこれだけのことをやっているということをもっとアピールしていくことも必要ではないか。

委員) ごみ問題を市民が自分たちの問題として認識をもっと定着させるために、もっとリサイクル推進員の活用を図るなどしていくべきである。また、あれもこれもというのではなく、優先順位を考えて取り組んでいくことが必要である。

委員) 全体的に自己評価が厳しいと感じた。傾向として行動計画に基づかない、成果指標に出てこないものは評価が低いのではないかと感じた。

委員長) 複数の委員から出ていたが、ごみ問題については平成15年度の原点に戻って、改めてごみ減量化に向けて取組を再構築してみるべきではないか。

エネルギーについては、国の方針が定まらないうちになかなか難しい部分はあるが、滝川市としてできることを進めていくべきではないか。

エコネットワークがこれから立ち上がるということだが、人とのつながりを大切にしながら、市が全てをやるというのではなく民間団体等の取組を支援することで、そういった動きを引き出してやる必要があると思うので、エコネットワークをフルに活用していくべきである。

→これらの意見について整理し、評価報告書案を作成することとするが、今回の会議が評価作業を進める上での最後の会議となるので、委員長と事務局に一任をいただき報告書案を作成し、それを回付し修正等の作業を図っていくことで成案としていくことについて、委員会として確認した。

4. その他

特になし

5. 閉会